2013 北海道　旅ログ　その 1

0 日目
ひとつ問題があった。
フェリーの出航が 20 時だったから、終業後にバイクをとりに帰ると間に合わなくなるかもしれない。そこで、朝は普通に車で出社し、その際大きな荷物は会社に入れておく。そして昼休みにバイクをとりに帰って、港に近い会社から直接旅立つことにした。
久々の長距離ツーリングとあって、いろいろと準備があった。タイヤとドライブベルトを替えたり、新しく買った防水袋（南海部品製）に工夫しながら荷物を詰めたり、フェリーチケットをリボ払いできる代理店で買ったり。そうした準備を整えて迎えた 0 日目。どんな旅になるんだろうという期待と、おかしな仕事が入り込んでしびれるような展開にならないかという不安が同居していた。とにかく、今日新門司から出るフェリーに乗りさえすればあとは何とかなるだろう。で、その日の仕事は目立たぬようにして何とか乗り切り、待ち遠しかった終業時刻！そのチャイムとともに荷物をバイクにくくりつけ、着替えを済ませ、一目散にフェリーを目指した。天気予報では「雷雨」の可能性もあったが、順調に都市高速を走り、19 時前には乗り場に着いた。
新門司〜神戸の往復でおよそ 19,000 円。阪九フェリーはネット予約すると結構安くなるし、その方法も簡単だ。予約番号を持って窓口に行き、乗船券を買う。帰りは神戸で買えばいいとのことで、この時は行き分だけを買った。また、その日は 2 等が混んでいるそうで、ドライバールームにしてくれた。それはちょっとした個室なので、そっちの方が嬉しかった。とにかく、船尾の方にバイクをとめて、10 日分の荷物や、カメラ機材、Mac、ヘルメットを抱えて 2 階上の船首側まで歩く。船室に荷物を放り込み、急ぎ風呂に入ってデッキにあがる。すでに岸からは離れていたが、出港の風景は残っていた。とりあえず缶ビールをあけて乾杯。
ちなみに、船内売店で不織布スリッパを 100 円で売っていた。このあと新日本海フェリーにも乗るので買っておいたが、安い割には計 4 回の使用に十分耐えた。

（持って行った荷物）

・下着、靴下 10 日分。半袖シャツ、長袖シャツ、ウインドブレーカー

・カメラ：Nikon_D7000。SONY_TX-5

・レンズ：SIGMA18-200、Nikon50mmf1.8、10.5mmf2.8

・SONY ビデオカメラ

・Web カメラ

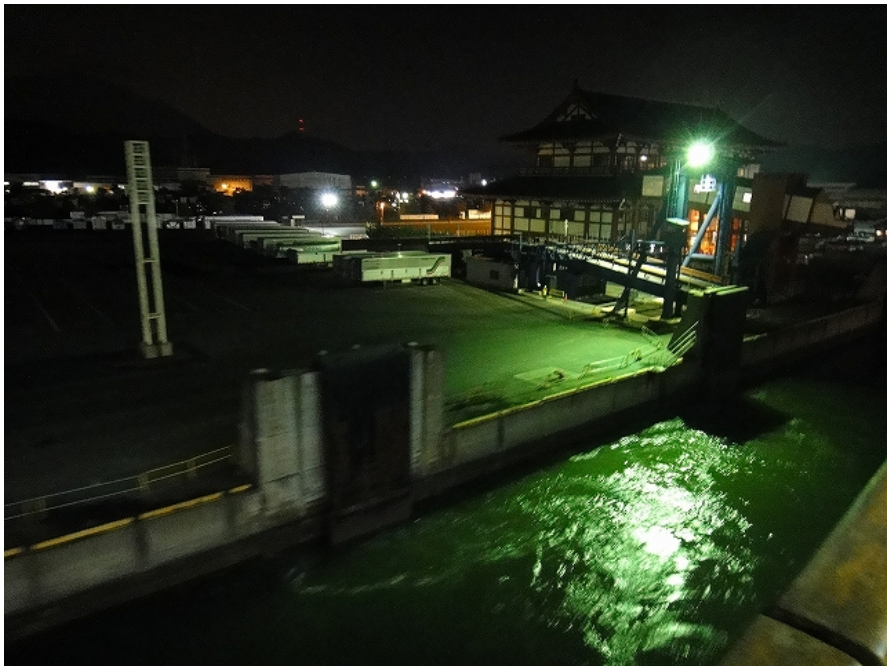
・三脚

・テント、寝袋、懐中電灯

・Mac。emobile 端末

・iPod_nano

・バイク用メッシュジャケット、メッシュパンツ、メッシュ手袋、冬用手袋



出航の様子

1 日目

神戸港到着

やはり私たちは現実世界に生きているので、一足飛びに北海道へ渡れるはずもなく、神戸港に着いた後、130km くらい離れた舞鶴港へ走ることになる。そこで、京都に寄り道して観光しようと当初から考えていたのだが、途中の国道 175 号は、その日恐ろしく渋滞していて、思うようには進めず、とにかく嵐山に着くのに３～４時間かかった。たった 40km くらいの道なのに。渡月橋に着いたら着いたで観光客が多く、バイクを止めるところさえ簡単には見つからない始末。昔はもっと簡単に川沿いの松の木辺りに止められた気がするのだが、気のせいか。渋滞と人混みで観光する気分がなくなって、一路舞鶴を目指すことにした。

渡月橋

実は、新福菜館のラーメンが大好きなので京都駅近くの本店に行くつもりだったのに、行かなくなって残念に思っていたところ、嵐山から R9 を目指す途中に発見！「念ずれば通ず」？まさに奇跡？
この支店のラーメンは特に「うまい！」と思った。

途中の道の駅でごろんと横になった時撮ったスカブ

舞鶴についたのは 16 時頃。

フェリーの時間まであと 7 時間。ちょっと時間がありすぎなので、天橋立を見に行くことにした。はてさて行ってみると夕方にもかかわらず観光客の人混み、車の多さに尻尾をまいて逃げた。「もう何度も行っているからもういいや」なんて思いながら、その先の籠（この）神社を目指した。この神社は古代史ファンには有名な神社で、今回が 2 回目の訪問となる。静かに旅の安全を祈願しよう。

嵐山へ行ったり、籠神社へ行ったり、北海道に着く前からツーリングお腹いっぱい気分の仕上げに、近くのクアハウスへ行った。天然の温泉で、天橋立を見渡しながら入浴できる。入湯料は 500 円と 800 円。高い方は全ての湯船につかれるが、そこまでの時間もないため、500 円の方にする。

クアハウス前で

フェリー乗り場に着いたのは 20 時くらいだったと思う。
とっぷり陽も暮れていた。
ゲート前で係員に止められたが、その時、目の前に停まっているバイクが同じ北九州ナンバーだと気づき、誘導に従って駐車場に停めたとき、そのバイクに声をかけた
「北九州からですか？私もです」
これが、小倉の土木技師さんとの出会いだった。

新日本海フェリー舞鶴乗り場

発券所で代理店チケットを乗船チケットに替え、近くのコンビニで買い出しをし、乗船位置に並んだときは既に 30 台くらいのバイクが並んでいた。小倉の技師さんを見つけ話し込んでいる時、目の前に停めたバイクの人が挨拶したので、「あ、どうも」と、親しげに挨拶を返した。その親しげぶりに小倉の技師さんが「知っている人ですか？」と聞いてきたので「確かさっき会った北九州の人です」と答えたが、どうもナンバーが違う。顔が似ていたので勘違いしたことが真相なのだが、とんだ赤っ恥だ。でもこれが、峠幾三さんとの出会いだった。
峠幾三さんは北海道の林道で 3 度も熊と出会して生還した猛者で、ブログもやっているため、その方面では有名人だ。ちなみに彼は幻の名ガイド本「なまら蝦夷」を持っていた。
乗船位置で待つ間、三人の話に、近くにいた熊本のベテランさんが加わり、北海道各地の話題に花が咲いた。
「羽幌と留萌の間にうまいウニ丼の店があって・・・」と私が言うと、
「それは、すみれという店でしょう」と、熊本のベテランさんが返す。めちゃくちゃ詳しい人だった。ちなみに、みんな旅程を確定させておらず、まさに「風まかせ」の旅をやるつもりだと分かった。やはりバイク乗りはそうこなくっちゃ。私もテントとシュラフを持参してきている。熊本のベテランさんは盛んに稚内港の稚内ドームを勧めていた。
つつがなく乗船を終え、荷物をベッドに置き（この時は不急の荷物は車両甲板に置いていた）、展望ロビーに集まり 4 人で乾杯。北海道に話で盛り上がったあと、2 時くらいに就寝。このフェリーの 2 等は個々のベッド式になっていて快適だった。

その 1 終わり。その 2 へ続く